



Title	1. 寄附講座「国土保全学研究室」の概要
Author(s)	南, 哲行
Citation	国土保全学研究室活動報告書, 1-4
Issue Date	2019-03-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75473
Type	other
File Information	03-Outline.pdf



1. 寄附講座「国土保全学研究室」の概要

名称：

北海道大学大学院農学研究院 連携研究部門 融合研究分野
国土保全学研究室

英語名称：

Laboratory of National Land Conservation
Cooperative Promotion Group
Division of Research Innovation and Cooperation
Research Faculty of Agriculture
Hokkaido University

寄附者：

一般財団法人 砂防・地すべり技術センター

設置期間：

2013/04/01～2019/03/31

設置の背景、目的

国土の7割が山地・丘陵地で占められる我が国においては、台風や梅雨前線等による豪雨や積雪あるいは火山活動、地震によって過去から土砂災害に見舞われてきた。2011年1月から噴火活動が活発化している霧島山新燃岳、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震や、9月の台風12号による紀伊半島の深層崩壊などのように、近年、地震・火山活動・集中豪雨によって大規模な土砂災害が頻発している。

これらの土砂災害を防ぐためには、国土を監視する技術と危機管理体制の整備が不可欠である。そのため土石流シミュレーション技術を生かした火山地域のハザード設定や火山地域を含む中山間地における避難体制のあり方、土砂災害防止のための土砂移動動態の把握等の土砂災害防止に関する研究開発等が必要となってくる。

北海道には、有珠山や十勝岳など活発な活火山をはじめ、研究対象となるフィールド（火山、山岳域の中山間地、原始河川）が豊富であることから、研究室では国土の監視技術や地域の構造を踏まえた地域防災の進展をはじめ、我が国の抱える種々の土砂災害問題解消への貢献と、必要な技術を持った人材育成を図ってゆく。

研究室の体制

特任教授 南 哲行 農学博士

(H25・26 年度, 現: 砂防・地すべり技術センター理事長)

特任教授 小山内 信智 農学博士

(H27～30 年度)

特任准教授 野呂 智之

(H25～27 年度, 現: 国土技術政策総合研究所土砂災害研究室長)

特任助教 林 真一郎 博士 (農学)

(H28～30 年度)

事務補助員 土井 聡子

(H25～27 年度)

事務補助員 齊藤 景子

(H28～30 年度)

設置場所

農学部本館 N307 (特任教授・事務補助員), N313 (特任准教授, 特任助教)

寄附講座予算

2 億円 (H25～30 の合計)



HOKKAIDO
UNIVERSITY

Public Relations Division

Kita 8, Nishi 5, Kita-ku
Sapporo 060-0808 Japan
Tel: +81-(0)-11-706-2610
Fax: +81-(0)-11-706-4870
www.hokudai.ac.jp

近年、東日本大震災をはじめ大規模な自然災害が多発している。

21 世紀は防災の世紀と言われており、政府の重点施策のひとつとして国土強靱化が挙げられているなど、防災・減災対策に対する期待は非常に大きくなっている。しかし、その具体的な手法に関しては、まだまだ研究面でも多数の課題が残されており、特に災害対策の最前線である市町村にとっては住民の生命を守る最後の手段「警戒避難」が大きな課題となっている。

被災した多くの市町村長からは、防災・減災のための具体的な対策や基準づくりが専門家に対して強く求められている。

一方、わが国が直面している高齢化や人口減少傾向の中、持続可能な社会を構築するにあたって効率よく国土を保全していくことが国家的な課題となっている。一昨年の東日本大震災に見られたように、想像を絶する危機を「想定外」として一時的にも処理したことを反省し、科学・技術・行政が共同してこの難題に正面から取り組むべき時に来ている、と我々は考える。

この北海道においても活火山や断層が数多く存在し、また近年の気候変動によると思われる集中豪雨や度重なる台風の襲来など、大規模災害のポテンシャルは非常に大きい。

このような中であって、今年4月から北海道大学大学院農学研究院に、一般財団法人砂防・地すべり技術センターの寄附による国土保全学研究室が開設された。本研究室では、「北海道の大規模災害の解明に関する研究」と「地域防災力の向上に関する研究」を二つの柱として、これまで述べてきた課題について研究を進めるものである。

研究の実施にあたっては、地域の防災責任者である市町村長とともに問題点を探り、本学の学生にも参加を促し、実社会に直ちに活用される実践的な研究成果と将来の国土保全を担う人材の育成を目指したい。

関連する諸機関の皆様方には、本研究分野の発展を暖かく見守りつつ、時には厳しくご指導ご鞭撻を賜ることをお願いするものである。

平成 25 年 4 月 1 日

国土保全学研究室 特任教授 南哲行



北海道大学大学院農学研究院 国土保全学研究室

(連携研究部門 融合研究分野)

【概要】

設置：平成25年4月1日

【主な研究課題】

1. 北海道の大規模災害の解明に関する研究

- ・ 活火山、深層崩壊を対象に大規模災害を想定した将来の土地利用のあり方
- ・ 集団移住の歴史から紐解く土砂災害リスクを考慮した集落移転地保全、相互協定のあり方

2. 地域防災力の向上に関する研究

- ・ 中山間地域における建設関連産業の位置づけを地域防災力の観点から評価
- ・ 地域防災力の指標に関する研究

【地域貢献のため行う当面の活動内容】

- ① 砂防関係行政機関の若手～中堅技術者を対象に「国土保全」をテーマとしたゼミ形式の勉強会を予定（**国土保全研究会**）
- ② 市町村長に対するアドバイス（研修講師、助言等）
- ③ 砂防関係コンサルタント会社からの技術相談 等

特任教授（農学博士） 南 哲行
特任准教授 野呂智之
事務補助員 土井聡子



〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目
農学部本館N307（南・土井）、N313（野呂）
<http://www.agr.hokudai.ac.jp/kokudohozen/index.html> または上のQRコード